

2023年（令和5年）4月13日（木曜日）

水道産業新聞

ウォータービジネス

時流

中央設計技術研究所は昨年12月にトップが交代し、代表取締役社長に西原秀幸氏が就任した。西原氏は水道部門を中心にキャリアを重ね、「地域に寄り添う」同社の姿勢を体現し続けた技術者。本紙では、西原社長にこれまでの主な経歴を伺うとともに、今後の事業展開の考え方について、社長就任の抱負と併せてお聞きした。

就任インタビュー

■文化を継承しつつ新たな道  
■見据えた変革を

まず、社長就任の抱負を伺う。西原氏は「新たな時代に適応できる変革を」という前向きな言葉が返ってきた。

「当社は昭和22年に高柳水道調査設計事務所として設立され、昭和37年に現在の社名となりました。創立以来、一貫して水道を中心とした事業を展開



中央設計技術研究所 代表取締役社長 西原 秀幸氏

開する中で、下水道、廃棄物、さらには情報システムなど業域を拡大し、平成11年にオリエンタルコンサルタンツと資本提携してからは全国展開を図っていますが、あくまでも経営理念は「地域密着型コンサルタンツ」です。私は代目社長になりますが、これまでの社長が築いてきた歴史・文化を継承しながらも、変化の激しい時代の流れに適する術を確立する必要があると考えています」

「社長に就任して社員に向けて言ったことは、社員、さらにはその家族を通じて幸せを与える最高執行責任者として取り組む」というものでした。そのためにも、社員には立ちどころで技術、営業能力を獲得していただき、その力を発揮することで充実感と幸福感を両立できるようにしたいと考えています。これを達成するために社則も変える覚悟で諸事業を展開したいです。部門ごとのエッセンスをライカを育てたいです」

「ひとりには限界があり、それは大都市は勿論のこと、飲水のような小規模施設に至るまで多様な業務を経営している中で幅広い提案が求められる」と自負心を覗かせるが、それは自身の技術者としての足跡にも通底するようだ。

「水道分野で多様な業務を経営し、一人で行った仕事の中には、小松市の簡易水道の導入も経験した。平成7年から9年にかけての事業で、恐らく最も過酷な経験の導入検討に着手した日本

「山間地に行くほど、住む人は減っていきませんが、水源に近いところは太い傾向があります。これは水道システムとしての合理性に合うものではない。山間地では、限定的な所に水源を求めるのではなく、人がいる所からポンプアップする方が合理的です」と課題解決に向けては発想の転換の必要性も指摘する。

「IT基盤強化の方向性に合致した製品を既に提供しています。納入実績のある上下水道のASETトマシステムは、さらなる機能向上へ進化させる考えです。点検業務の高度化・効率化を息づかせる劣化シミュレーション、あるいは漏水箇所の把握のためのリアルタイム監視システムなど多様な製品を開発しています」

「3つの事業の柱を軸に実現するために今年の1月1日付でそのための組織改正を行い、取締役をそれぞれの事業を司る本部長に任命しました」

「さらには父からは、国はつまらない、民の方が断然良い」と強く言われまして（笑）。そんな親の助言と併せて将来の進路についてはいろいろと考えましたが、当社に入社した友人、さらには当時社長の、上下水道の仕事は貴重で人にとってかけがえのないものという言葉を、トップの人な雰囲気の中で、一人ひとりに浸透させているので、一人ひとりに浸透力があり、それは大都市は勿論のこと、飲水のような小規模施設に至るまで多様な業務を経営している中で幅広い提案が求められる」と自負心を覗かせるが、それは自身の技術者としての足跡にも通底するようだ。

「水道分野で多様な業務を経営し、一人で行った仕事の中には、小松市の簡易水道の導入も経験した。平成7年から9年にかけての事業で、恐らく最も過酷な経験の導入検討に着手した日本

「山間地に行くほど、住む人は減っていきませんが、水源に近いところは太い傾向があります。これは水道システムとしての合理性に合うものではない。山間地では、限定的な所に水源を求めるのではなく、人がいる所からポンプアップする方が合理的です」と課題解決に向けては発想の転換の必要性も指摘する。

「IT基盤強化の方向性に合致した製品を既に提供しています。納入実績のある上下水道のASETトマシステムは、さらなる機能向上へ進化させる考えです。点検業務の高度化・効率化を息づかせる劣化シミュレーション、あるいは漏水箇所の把握のためのリアルタイム監視システムなど多様な製品を開発しています」

「3つの事業の柱を軸に実現するために今年の1月1日付でそのための組織改正を行い、取締役をそれぞれの事業を司る本部長に任命しました」

「一人財一を最大限に活かしながら上下水道事業の基盤の強化に貢献していく構えだ」

（にしはら・ひでゆき）金沢工業大学土木工学科卒業後、平成5（1993）年中央設計技術研究所に入社。技術開発本部プロジェクト開発部長兼白山湖代表取締役（兼任）、取締役営業統括部長、取締役経営統括本部長兼営業統括本部長等を歴任し、昨年12月から現職。学生時代は、クロスカントリースキーで優勝するなスポーツマン。昭和45（1970）年2月生まれ。53歳。

課題解決への貢献が責務

充実感と幸福度の両立見据え

「水道分野で多様な業務を経営し、一人で行った仕事の中には、小松市の簡易水道の導入も経験した。平成7年から9年にかけての事業で、恐らく最も過酷な経験の導入検討に着手した日本

「山間地に行くほど、住む人は減っていきませんが、水源に近いところは太い傾向があります。これは水道システムとしての合理性に合うものではない。山間地では、限定的な所に水源を求めるのではなく、人がいる所からポンプアップする方が合理的です」と課題解決に向けては発想の転換の必要性も指摘する。

「IT基盤強化の方向性に合致した製品を既に提供しています。納入実績のある上下水道のASETトマシステムは、さらなる機能向上へ進化させる考えです。点検業務の高度化・効率化を息づかせる劣化シミュレーション、あるいは漏水箇所の把握のためのリアルタイム監視システムなど多様な製品を開発しています」

「3つの事業の柱を軸に実現するために今年の1月1日付でそのための組織改正を行い、取締役をそれぞれの事業を司る本部長に任命しました」

「一人財一を最大限に活かしながら上下水道事業の基盤の強化に貢献していく構えだ」

（にしはら・ひでゆき）金沢工業大学土木工学科卒業後、平成5（1993）年中央設計技術研究所に入社。技術開発本部プロジェクト開発部長兼白山湖代表取締役（兼任）、取締役営業統括部長、取締役経営統括本部長兼営業統括本部長等を歴任し、昨年12月から現職。学生時代は、クロスカントリースキーで優勝するなスポーツマン。昭和45（1970）年2月生まれ。53歳。